



認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2024 年度事業報告書 2025 年度事業計画書



JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。

- *開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
- *より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
- *諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。

- *主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
- *国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることから始めよう」を実践します。

- *人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。

- *プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。

- *現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
- *現場の人々と直接やり、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。

- *支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。

- *役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

第7回ジャパンSDGsアワード副本部長賞 (外務大臣賞) 受賞



当会は第7回ジャパンSDGsアワード（主催：SDGs推進本部、本部長に岸田文雄内閣総理大臣-2023年当時）において、顕著な功績があったと認められる企業・団体等に贈られる「SDGs推進副本部長（外務大臣）賞」を受賞いたしました。

総受益者10万人以上に上る、JHPの包括的な支援活動が「教育の質の向上」「衛生環境の向上」「生活水準の向上」「社会的発展」に繋がるSDGs達成に向けた優れた功績であるとして評価を頂きました。

今後も当会は未来を担うすべての子ども達が安心して学べる教育環境づくりに尽力してまいります。



認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2 LandyTamachi 2F

TEL 03-6435-0812 FAX 03-6435-0813

E-Mail: tokyo-office@jhp.or.jp ホームページ: www.jhp.or.jp

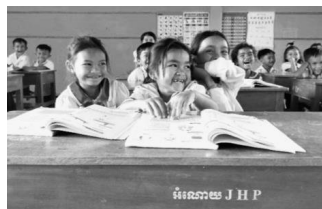
X(旧Twitter): @JHP_tokyo Facebook: JHP・学校をつくる会

本書の印刷は株式会社プロネクス様にご協力頂きました。

2024年度 事業報告書 2025年度 事業計画書

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ JHP の活動・歩み・理念	4-5
■ 小山内美江子さんを偲ぶ会	6-7
■ 学校建設（カンボジア）	8-9
■ 学校建設（ネパール） / 中古机椅子寄贈	10
■ 衛生教育（カンボジア）	11
■ 初等科芸術教育支援事業	12-13
■ 音楽・美術教育支援事業	14
■ CCH アート・プロジェクト	15
■ 成人識字教育事業	16
■ カンボジア体験ボランティア	17
■ 広報活動	18-19
■ 組織運営	20-21
■ 2024 年度活動計算書	22
■ 2024 年度貸借対照表・監査報告書	23
■ 2025 年度事業計画	24-30
■ 2025 年度活動予算書	31
■ （裏表紙）JHP 行動基準	32



ごあいさつ

平素より私ども JHP・学校をつくる会に多大なご支援・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

1993 年 9 月の発足以来、皆さまの温かいご支援を受けて、2024 年度までにカンボジアをはじめとする途上国へ 400 棟以上の学校建設を行うことができました。カンボジア内戦後に日本の官民合わせて建設した学校 1 千棟のうち、約 4 割を占める学校建設を支援し、教育環境の改善に寄与できましたのは、ひとえにご支援をいただく皆さまのおかげと、ここに心よりお礼を申し上げます。

こうした学校建設事業とあわせてトイレや手洗い場等の衛生施設の支援や衛生教育の普及を行いながら、教育支援分野もハード面からソフト面への拡大に努めてまいりました。

なお、子どもたちの豊かな心を育むための芸術教育支援活動は、2024 年度から、カンボジア教育省と連携しつつ、カンボジア全土の小学校での芸術教育普及を目指し、「芸術教科（音楽・美術）」のカリキュラムの作成、教科書・指導書作りやトレーナー育成等、より一層広範な活動へと取り組んでおります。

2018 年からは、子どもの親世代の教育意識向上の一環として成人のための識字教育支援活動も開始し、修了者はこれまでに累計 462 名に至るなど、大きな成果を得ました。

こうした現地での教育支援活動に加えて、地球視野を備えた人材育成を目指した日本の若者のカンボジアボランティア隊派遣活動も、今日まで継続的に取り組んでおります。

2024 年 5 月には、創立 30 周年の節目の時を見届けるように、創立者の小山内美江子代表理事が老衰のため、永眠いたしました。弊会にとっては大きな支柱を失うことになりましたが、小山内代表が生涯にわたり情熱を注いだ「子どもたちの希望ある未来のための支援」活動と「できることから始めよう！」の精神を引き継ぎ、新たな第 2 のフェーズへと踏み出す意識を持ちつつ、支援者の皆さまのご支援のもとで、今後も真摯なる活動に一層邁進する所存であります。

どうぞ引き続き、皆さまのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表理事 青木一能



JHP の活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。 小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	9月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を創設。	(写真A)
1994	カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	
1995	JEN設立に創立者小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。 阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。 カンボジアにブノンベン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	(写真B)
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。 アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の構成団体となる。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	(写真C)
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。 10月に東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受け、11月に登記完了。	
2000	ブノンベン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。 カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	(写真D)
2002	JHP初の孤児院完成。CCH（幸せの子どもの家）支援開始。	
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	1月1日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。 新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施（以降年1回実施）。	
2006	JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。 国際ボランティア・カレッジ開催。 創立者小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生（ともいき）・地域文化大賞を受賞。 新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。 東日本大震災発生（3月11日）。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。	
2011	平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。 JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。	(写真E)
2012	JHP創立者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。 公益財団法人かめのり財団より、「第5回かめのり賞」の表彰を受ける。 JHP行動基準が制定される。（詳細は裏表紙を参照）	
2013	JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。 300棟記念校舎が完成。	(写真F)
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。 創設20周年を祝う、記念の集いを開催。 教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。 熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。（4月～）	
2016	JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」が開始される。（8月）	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	
2020	公益財団法人社会貢献支援財団より、第54回社会貢献者の表彰を受ける。 パナソニックホールディングス株式会社より、『NPO/NGOサポーターファンド for SDGs』組織診断助成の通知を受ける。	
2023	JHP30周年記念祝賀会開催。 「第3回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」教育の部を受賞。 第7回ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣）賞の表彰を受ける。	(写真G)
2024	パナソニックホールディングス株式会社より、『NPO/NGOサポーターファンド for SDGs』組織基盤強化助成の通知を受ける。 JICA草の根技術協力事業「カンボジア国 初等科芸術科教育普及体制構築事業」が開始される。（2月） 創立者で代表理事の小山内美江子氏が5月2日に94歳で逝去。「小山内美江子さんを偲ぶ会」を7月27日に開催。	

JHP の理念

JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行い、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。



(写真A) カンボジア活動隊派遣開始



(写真B) 阪神淡路大震災救援活動開始



(写真C) カンボジア教育省と合意書締結



(写真D) CCH 支援開始



(写真E) 外務大臣表彰受賞



(写真F) 300 棟記念校舎完成

■ 創立の経緯

創立者の小山内美江子氏は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の见えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身体団JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を創設しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。



(写真G) 創立 30 周年記念祝賀会開催

小山内美江子さんを偲ぶ会

200名が集い開催、小山内さんへの感謝が溢れる温かい会に



開式の様子



献花の様子



黙祷

2024年5月2日に94歳で逝去されたJHP創立者であり、以来、代表理事を務めた小山内美江子さん。訃報の知らせがあつて以降、「ぜひ偲ぶ会を開催していただきたい」と多くのお声をいただき、2024年7月27日（土）に新橋の会場にて「小山内美江子さんを偲ぶ会」を開催することができました。

小山内さんに最期の挨拶がしたいと全国各地から、約200名にものぼる方々がご参集くださいました。当日会場にお越しになれなかった方々からも、多数の弔電やお花をお送りいただきました。お心をお寄せいただきました皆さまへ心より感謝申し上げます。

「小山内さんへの感謝の気持ちをもち寄り、手作りで温かみのある会にしたい」というコンセプトのもと準備が進められた本会では、生前小山内さんにお世話になったフラワーデザイナーの片岡貴央様が「恩返しをしたい」という想いでお花畑をテーマにお花壇を手がけてくださいました。会場には、小山内さんと緑の深いヴァイオリニスト・天満敦子さんによる「涙そうそう」のヴァイオリン演奏がBGMとして美しい音色で響き渡るなか、ご参列の皆さま一人ひとりがJHPのロゴにちなんだオレンジ色のカーネーションを手にとり心を込めて献花されました。



思い出のスライド



天満敦子さん、藤原紀香さんによる追悼メッセージの様子



カンボジアからの弔電代読

司会による黙祷の合図から会が始まり、「思い出のスライドショー」上映の時間では、教育に生涯情熱を注いだ小山内さんの人生と途上国での教育支援活動の歩みをご紹介しながら、たくさんの人の未来を明るく照らしてくれた小山内さんの功績をあらためて実感する時間となりました。

続いて、JHP代表理事によるご挨拶の後、小山内さん直々のオファーにより、JHPスペシャルサポーターに就任され、長年に渡り活動を応援してくださっているヴァイオリニストの天満敦子さん、藤原紀香さんから追悼メッセージをいただきました。小山内さんの人柄をよく知るお2人だからこその想いのこもったメッセージに参加者全員が小山内さんへ想いを馳せる時間となりました。また、プノンペン事務所代表のスタッフによるカンボジア国内からの弔電が代読されました。

ご子息の利重剛様からは小山内さんの最期のご様子をお話いただき、「近年は度重なる手術や入院を通過しながらも、お医者様から最期は老衰とのお話があり、母らしく、しぶとく人生を生きてくれました。生前多くの人に愛され、今日こうしてたくさんの方にお集まりいただいたこと、そして花々に囲まれた立派な祭壇を見てきつと母も喜んでいると思います」とのお言葉がありました。



利重様からのご挨拶



ゆかりの品展示コーナー



小山内さんへの追悼メッセージコーナー



会場内には、小山内さんの秘蔵写真や直筆脚本原稿、受賞歴を示す賞状のほか、午年生まれであった小山内さんが生前収集していた馬の置き物などの遺品展示も行われ、来場者の皆さまが興味深くご覧になっていました。

懇談の時間には、久しぶりの再会を喜びあう姿や、小山内さんがつないでくださったご縁を振り返る温かな交流が広がりました。また、設けられた「メッセージコーナー」には、感謝の言葉が綴られた桜の花びらが満開に咲きました。

当日は「小山内さんに恩返しをしたい」と、かつてカンボジアで活動されたJHPのOBOGを中心に20名以上の方々がボランティアとして申し出くださり、十数年ぶりの再会を喜び合う姿が見られました。率先して動いてくださるボランティアの方々の間には「同じカンボジアの地でボランティアをした」という見えない絆がたしかに根付いていて、何とも言えない一体感を感じられ、教育に生涯情熱を注いだ小山内さんの素晴らしい功績を感じられた貴重な機会でもありました。

「教育は国家百年の計*」という熱き信念のもと「できることから始めよう!」をモットーに活動を続け、JHPを通して教育を受けることができるようになった人たちは10万人を越えました。

たくさんの人の未来を照らしてこられた小山内さんの遺志を受け継ぎ、今後も国を越えた助け合いの輪を広げ、活動を継続してまいります。今後とも皆さまの温かいご支援・応援の程、よろしくお願いいたします。

*人材こそ国家の要であり、また100年後の国を支える人物をつくるために長期的視点で人を育てることの大切さを説いた名言に由来



学校建設（カンボジア）

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者		主な支援内容							
			生徒数	教員数	校舎		トイレ		机/椅子	井戸 水タンク	手洗場	遊具
					棟	室	棟	室				
376	バンティアイチャックレイ中学校	ブレイベン州	428	13	1	1			24			
377	アンロン・トラック小学校	バタンバン州	373	14	1	3	1	4	30			
378	ボーロン小学校	ブレイベン州	480	12	1	3	1	4	72			
379	チュティエル中学校	スバイリエン州	389	20	1	2			48		1	
付帯設備	ブムロック小学校	トゥボーコム州	150	5			1	2				
付帯設備	スキア小学校	ブレイベン州	374	9							1	1
付帯設備	ワットスダイ小学校	バタンバン州	194	8							1	
付帯設備	ブンブリャオン小学校	トゥボーコム州	269	7								1
付帯設備	オンクローン小学校	バタンバン州	363	12								1
付帯設備	スラーチニエン小学校	バタンバン州	85	43					72			
付帯設備 & 校舎補修 (校舎再塗装)	ブレイクラール小学校	ブレイベン州	556	15	(1)	(5)			34			
校舎補修 (モルタル敷設と校舎再塗装)	ドーンチュルム小学校	コンボンスプー州	520	15	(1)	(5)						
2024年実績 ⇒			4,181	173	4	9	3	10	280	-	3	3

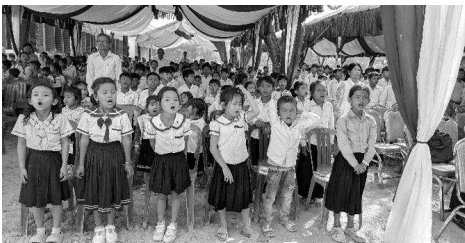
* 実績の（ ）内の数字は、既存施設の補修棟数と室数を示します。2024 年の実績には加算されません。

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき、主に ①教室数の不足度、②校舎の老朽化や倒壊の危険性、③生徒数の増加程度（村の人口形態）、④校舎以外の設備の必要度をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。今年度はカンボジア 4 州に小学校 4 棟 9 室、校舎補修 2 棟 10 室、トイレ 3 棟 10 室、手洗い場 3 基、遊具(ブランコ)3 基を建設し、総受益者は生徒 4,181 名、教員 173 名の成果を得ました。これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 379 棟、また他国、ラオス 1 棟とネパール 21 棟を加えた総実績は 401 棟となりました。また年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。



ボーロン小学校贈呈式 集合写真



贈呈式で国家斉唱する児童



アンロントラック小学校
園児が新しい机と椅子に座り文具を手に取り喜び様子



オンクローン小学校
ブランコ完成後の集合写真

プロジェクトの背景

国際機関や NGO 等の援助により、カンボジアの教育環境は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。また、長く続いた内戦の影響により現在第 2 次ベビーブームのピークを迎え、子どもの数が増えている。統計的にこの傾向はあと数年続くと予想される。このことから都市部、地方含む各学校では慢性的な教室不足が続いており、生徒が過密な環境で学んでいた、正規の時間数が学べなかったり等の弊害が出ている。

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2023～2024 年度の教育省統計は公立の小学校は 7,398 校、中学校 1,790 校、高校は 581 校（内 546 校は中学と同じ敷地内、残り 35 校は高校のみ運営）、よって学校の総数は 9,223 校です。
その中で JHP は支援校 304 校（約 3.3%）の支援に携わっています。

■カンボジアと日本間の交流

2024 年度は、日本の支援者の皆様を招いた贈呈式を合計 3 回実施しました。また、カンボジアでの現地の子ども達との交流会を計 6 回実施しました。私たち日本人からすると、また学校を訪問し再会できる可能性があります、カンボジアの児童からすると日本に行って再会できる機会は少ないです。よって、児童が一期一会かもしれないこの交流できる時間を全身でカーン楽しむ姿が印象的です。



オンクローン小学校
(左) 炎天下で窓の再塗装を行う支援者 (中) 窓の再塗装を手伝う児童



ブンブリャオン小学校
ブランコ設置を手伝う児童



■支援者による現地学校でのボランティア活動

2024 年度は、支援者の皆様による 2 つの学校で校舎のドアと窓の再塗装活動と、3 つの学校でブランコ設置活動を実施していただきました。支援者の皆様には暑さにも負けず目標達成まで実施していただきました。作業の途中、学校の児童たちが手伝う姿も多く見られ、支援者の皆様だけではなく、教室や遊具を使用する児童たちにとっても貴重な時間になっていました。



オンクローン小学校
支援者から兜をもらい喜び児童



クラオル小学校
支援者と玉入れ交流



ビームロー小学校
綱引き交流



マニャブロー小学校
日本から届いた机と椅子を使用する生徒

■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を寄贈

机232台と椅子90脚が届き、90セットをバタンバン州モングルセイ郡の4つ小学校へ、机142台をカンダール州タクマウ郡の中学校1校へ寄贈しました。生徒から『机の横にあるフックは何のため？』という質問もありました。カンボジアの机にはフックがないので、机の横にバッグ等をかけることができるという新鮮な喜びも生徒たちにお届けできたようです。

学校建設（ネパール）

■ネパール校舎累計で 21 棟 88 教室完成

2011 年に始まったネパールでの学校校舎建設支援活動はこれまでに 21 棟、88 教室が完成しました。支援者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。本年度中の建設実績はありませんでしたが、現地担当スタッフの協力の下、これまでに建設した学校の状況やニーズ調査を実施、進捗状況の把握に努めてまいりました。（写真参照）



新しい校舎やトイレ、手洗い場の建設支援によって、子どもたちが安全な環境での学びが保証されただけでなく、彼らの成長を支える教師や保護者、地域住民も恩恵を受けることができます。

ネパールの子どもの教育環境を少しでも改善するため、引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

プロジェクトの背景

JHP の学校建設プロジェクトは、2011 年にネパール東南部に位置するジャバ州で開始されました。ジャバでは、学校はきちんと機能しているものの、校舎数が非常に不足し、子どもたちは教室の水準に達しない狭い部屋に押し込まれ、でこぼこな床、雨が降ると水漏れするタタン屋根、設備の不十分な教室で勉強していました。こうした状況を調査により把握後、JHP はネパールでの学校建設プログラムを開始させることを決定しました。支援の目的は、学校校舎を建設すること、特に僻地の村に学校を建設することでした。この支援により生活に困窮した貧しい農家の子どもたちがこれまでより良好な環境で教育を受けられるようになりました。

中古机・椅子寄贈



江東区、江東区海外リサイクル支援協会、JHP・学校をつくる会の三者協働事業として、江東区内の小中学校で使用されなくなった机や椅子を丁寧に修繕し、カンボジアの子どもたちへ寄贈する活動を行ってまいりました。この活動は 2004 年から 20 年間続き、これまでに 3,859 セットが届けられ、延べ約 35,300 人もの子どもたちの学びの場で活用されています。

本事業は本年度をもって一定の役割を終えることとなりましたが、これまで届けてきた机や椅子は、これからもカンボジアの子どもたちの学びを支え続けてくれることでしょう。長年にわたりご協力いただいた江東区、江東区海外リサイクル支援協会の皆様をはじめ、活動に関わってくださった全ての皆さまに、心より深く感謝申し上げます。



衛生教育（カンボジア）

■衛生環境を整え、安心、安全な学校生活を

2024 年度はトイレ 3 棟 10 室、手洗い場 3 基を必要とされている小学校に設置、並びに手洗い用の石鹸を含む衛生用品を 1 校に支援し、各校の衛生環境の改善に取り組みしました。



ポーロンク小学校 - 4 室トイレ



ワットスダイ小学校
手洗い場と寄贈された文具に囲まれる児童



ブノムローク小学校 - 2 室トイレ

■衛生教育の実施

学校建設事業担当のスタッフが、新校舎の建設前の最終協議会にて計 4 回、紙芝居などを使用し衛生教育を実施しました。また、8 月にカンボジア体験ボランティア参加者が、訪問先の小学生を対象に「なぜ公衆衛生が大切なのか」についての劇を披露、その後、手作りの紙芝居を使って手洗いの方法と手順を伝え、最後に完成されたばかりの手洗い場で一緒に正しい手洗いを実践しました。



アンロントラック小学校 - JHP スタッフによる衛生教育



スキア小学校 ボランティア活動隊による衛生教育の劇（左）と手洗い教室（右）



ワットスダイ小学校
笑顔で手洗いをする児童

■衛生的な施設支援の必要性

カンボジア政府は 2025 年までに全国民が衛生的な水とトイレにアクセスできることに目標を置くが、同国の地方開発省の発表によれば、貧困層や農村部に在って全人口の約 25%にあたる約 300 万人は衛生的なトイレを使用できず、野外や田んぼ等で用を足している。屋外排泄はバクテリアを増殖し、地下水や農産物の汚染を引き起こし、排泄中に土を介して感染症にかかる可能性もあり命を失う恐れがある。

このような環境下にある学校関係者は政府に衛生施設の建設を要請しているが、財政難を理由に対策は順調に進んでいない。貧困層の多い村民から資金の供出も容易ではなく、国際的な支援は解決策の 1 つである。また、SDGs の目標 6 で「安全な水とトイレを世界中に」と宣言されている。

JICA 草の根技術協力事業（パートナー型） 初等科芸術科教育普及体制構築事業

当会の事業の柱の一つである「初等科芸術教育支援事業」が2023年3月にJICA草の根技術協力事業（パートナー型）として再採択されました。第2フェーズとなる当事業では、人材育成を主軸に芸術教科教育普及のための基盤の構築に取り組んでいます。

■第2フェーズ 事業概要

<実施期間>

2024年2月～2027年1月

<プロジェクト目標>

初等科芸術教科普及の基礎が構築される

<3年間の成果目標>

- 成果1. 新たなナショナルトレーナー（芸術教科を指導できる教員）の育成
- 成果2. 第一版の生徒用教科書、指導書、シラバスの改訂案を教育省に提出
- 成果3. 教員養成大学（TEC）のシラバスの改訂および指導法に関する教材の開発
- 成果4. 初等科芸術教科普及計画案を教育省に提出

■2024年度の活動進捗報告

成果1. 新たなナショナルトレーナー（芸術教科を指導できる教員）の育成

<訪日研修の実施>

2024年2月にカンボジア教育省各局（教員養成局、カリキュラム編成局、初等科教育局）の職員及び教員養成大学の先生方、そしてアドバイザーとして文化芸術省の職員を迎え、合計16名のワーキンググループ（WG）を結成しました。WGが具体的な芸術教育の将来像を描けるようになることを目指し、2024年5月に1週間の訪日研修を実施しました。日本の小学校における図画工作科及び音楽科の授業の視察、また日本の大学における初等科芸術科教育の教員養成の仕組みを学び、カンボジアの教員養成システムに組み込んでいくための知見を得ることを目的に大学での講義の視察を行いました。



小学校でアートカードを活用した授業に参加



大学でダンボールを使った造形体験



大学で様々な楽器の音を体験

<WGによる音楽科研修の実施>

日本人音楽科の専門家監督の下、WGによる音楽科の第1回目の研修をブノンペンで実施しました。研修の対象者はブノンペン教員養成大学、バットンバン教員養成大学、シェムリアップ州教員養成校、カンダール州教員養成校に勤務する先生方合計12名です。音楽教育を実施することは難しいと思う先生達が多い背景があり、音楽教育＝楽しい教育ということを伝えるため、身体を使ったリズムゲームや、カエルの歌のレッスンでは実際にいろんなカエルになって歌ってみる等の活動を積極的に取り入れました。研修生を対象とした事後アンケートでは、「所属先でも実際にやってみようと思った」「今回の研修のように子ども達にも音楽の楽しさを伝えたい」等の意見が多く見受けられました。



リズムゲームを楽しむ研修生



様々なカエルになって歌ってみる様子



音楽専門家による音楽ゲームの紹介

成果2. 第一版の生徒用教科書、指導書、シラバスの改訂案を教育省に提出

<小学校1年生から3年生までの教科書、指導書の改訂を実施>

WGが音楽・美術チームに分かれ、教科書、指導書のミススペルやその学年の児童にとって分かりやすい表現が使用されているのか、また題材は各学年のレベルに合致しているのか等、1ページずつ全員で確認をし、必要な場合修正を行いました。



<現地の小学校にて改定部の照合作業>

各学年の改訂作業終了後、タケオ州にある小学校にて現地の先生が実際に改定した教科書を使用し、授業を行いました。WGは児童や教員達の様子を視察しながら、改訂部の照合作業を実施しました。



プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通した自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

1996年より実施している音楽・美術教育支援事業では、対象地域において芸術教育を現地主体で継続して実施していくために必要とされる支援を行ってきました。

今年度は、音楽教育はプノンペン特別市、カンダール州を対象に、美術教育はプノンペン都・カンボット州・スパイリエン州・タケオ州を対象に取り組みました。

楽器不足で音楽の授業実施が難しい学校や教育機関等へも継続的に幅広く支援を行っています。

●美術（プノンペン都、カンボット州、スパイリエン州、タケオ州）

【美術の授業の継続、

自校開催の絵画展などを目的とした画材の寄贈】

プノンペン都、カンボット・スパイリエン・タケオ州の32校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を後方支援するために、画材の寄贈を実施しました。



カンボット州・スパイリエン州・タケオ州・プノンペン都での画材寄贈

【ミツバチの一枚画コンクール】

（株）山田養蜂場様が主催する当コンクール。

第12回のコンクールには、計2名の生徒達が海外部門で入選しました。



●音楽

【音楽教員育成のための特別強化研修】

音楽教育の実施を望んでいるにも関わらず、指導ができる教員がいないために実施ができていない教育機関を対象に、研修を実施しました。



＜研修概要＞

一対象教員：プノンペン特別市芸術教員2名

カンダール州芸術教員1名

一研修期間：10日間（5日間×2回）



【地域や学校への楽器寄贈】

楽器寄贈のリクエストを受けた各教育機関への楽器寄贈も継続的にを行っています。



CCH アートプロジェクト

■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ基金の支援により2015年より実施しています。

子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

●アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。

美術では絵画だけではなく、立体作品づくりや友だちと協力して作品をつくる活動もしています。また美術の活動の最後には、友だちの作品の気に入ったところや、自分の作品の頑張ったことなどをお互いに伝え合う時間があり、子どもたちはイキイキと活動に取り組んでいます。

音楽では、クメール音楽と外国曲を含む歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏、打楽器やボディパーカッションに取り組んでいます。



紙コップを利用した面白い人形作りの様子



グループでの作品づくりの様子



友だちの絵の好きなところを伝えている様子



鍵盤ハーモニカの練習風景



音楽でのボディパーカッションの様子



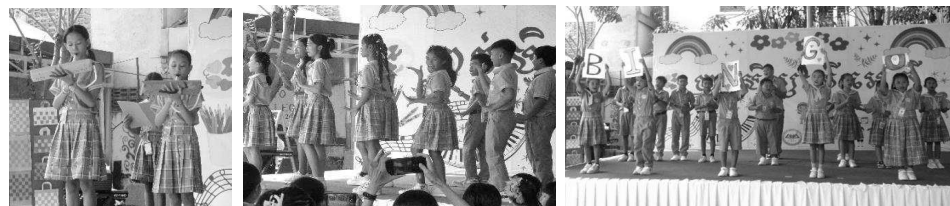
音楽に合わせて小物楽器を演奏している様子

●CAP（CCH—Arts Project）Festivalを開催

恒例のアートフェスティバルは、昨年に引き続き、今年も無事開催することができました。

今年の発表では、歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏に加えてカンボジアの踊りの発表も行いました。

短い練習期間でしたが、緊張しながらも子どもたちは舞台の上で良い表情をしていました。



成人識字教育事業

2024年9月に開講した第6期目となる識字クラスは、2025年4月に修了しました。
今年度は100名の受講生が仕事と両立しながら、粘り強く勉強を続け、修了試験合格を目指しました。

第6期 識字クラス概要

- 開講場所：コンボンチャム州 バティエ郡 サンダエックコミュニティ内にある4村
(タンチュレイ村、チョームマサオ①、チョームマサオ村②、スラーコッコ村)
- 開講期間：8カ月間
- 開講日及び時間：月曜から土曜まで週6日(午後6時から8時まで)
- 総生徒数：100名(各村25名) 男性26名、女性74名
- 現地カウンターパート：識字教員4名、スーパーバイザー1名、アシスタントスーパーバイザー1名

8月



識字クラス開講前の教員養成クラス

9月



開講式を実施

9月

3月

識字クラス実践



フラッシュカードを使用し丁寧に教える教員



黒板に何度も書く練習をしている生徒



勉強している母親を見守る子ども



識字クラス教員 ベン・ブロス先生

私は自分の村の発展に少しでも貢献したいと思い、識字教員を今回志望しました。識字クラスでは読み、書き、計算の能力を養うだけでなく、村の中でのネットワークづくりに役立っています。
日本の皆様のご支援に感謝いたします。

ボランティア派遣

■8月カンボジア体験ボランティア 8月18日～8月26日

活動内容：ブランコ建設、衛生ワークショップ、CCHでのアート活動、他団体訪問等

活動場所：プノンペン市、プレイベン州

参加者：計24名(高校生3名/大学生16名/社会人5名)



<プノンペン空港到着>
これから約1週間
よろしくお願いします!



<ブランコ建設①>
設置用の穴掘り作業

<ブランコ建設②>
ペンキ塗り

<ブランコ建設③>
無事に完成しました!

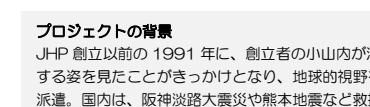


<衛生教育ワークショップ>
手洗いをテーマとした寸劇



<CCH アート活動>
ペットボトルランタン作り

<CCH 交流>
子どもたちとダンス



<11/24 活動報告会>
成長が見られた発表でした



プロジェクトの背景

JHP 創立以前の1991年に、創立者の小山内が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて学生と活動を共にし、成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまでに海外は、カンボジアを含め複数の国々へ派遣。国内は、阪神淡路大震災や熊本地震など救援活動にボランティアを派遣している。

広報活動

7/27 天満敦子チャリティーコンサート開催 浜離宮朝日ホール



今回で第19回目を迎えたJHPチャリティーコンサートは「天満敦子チャリティーコンサート」として2024/7/27（土）に開催しました。天満さんは2021年初冬、突然の頸椎損傷による体調不良のため、手術と半年近いご入院をされましたが、術後の厳しいリハビリを越えられながら「音楽の楽しさを分かち合いたい！」という熱い想いで、約3年振りにJHPコンサート

へステージ復帰されました。「天満さんのヴァイオリンの音色を聴きたい」と多数のお申込をいただき、チケットは完売、当日は500名の方にご来場いただきました。

また、今回は2024年5月に逝去されたJHP創始者小山内美江子さんの追悼記念として開催されました。当日は、小山内さんを「おっかさん」と呼ぶ程、ご縁の深い天満さんからの小山内さんとのカンボジアへ行った際の思い出話を交えた追悼メッセージと、献曲として「見上げてごらん夜の星を」の心に沁みるヴァイオリン演奏がありました。天満さんも観客の皆さんも小山内さんのことを思いながら、心温まる時間を過ごすことができました。

ご来場くださった皆様からは、「心のこもった演奏にとっても感動した」「術後の厳しいリハビリを越え奏でられた天満さんの繊細かつ力強い演奏に勇気もらい涙が出た」などのご感想が多数、寄せられました。チャリティーにご賛同くださった皆様へ感謝申し上げます。

ご報告 入場料・募金 2,873,252 円
支出合計 1,295,327 円
チャリティー額 1,577,925 円



次回は2025年7月26日（土）に、今年も浜離宮朝日ホールにて開催を予定しています

諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	○カラー発行部数 1,230部 ▶データのPDF送信数は64件（'25/3下旬現在）
ホームページ運営	○JHPの諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。サーバードメイン移管・変更、常時SSL化作業を実施。
メールマガジン	○年19回発行。閲覧者1,104人（'25/3月下旬 現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとTwitterを活用した。 ▶FaceBookフォロアー：1072人（'25/4 現在） ▶Twitterフォロアー442人（'25/4 現在）
講演・講義・説明会等	○役職員が年8回実施した。
来訪者受け入れ	○ブノンベン事務所が148名を対応した。
カレンダー販売	○718部（壁掛け型:315部・卓上型:403部）を販売した。

イベント出展

今年度、当会は年間4回のイベントへ出展参加しました。各イベントでは、JHP活動紹介と紹介資料の配布を行い、1人でも多くの方にカンボジア・ネパールの教育状況について知ってもらい、支援の輪を広げることに努めました。

また、教育支援の資金を集めるために、カンボジア・ネパールの民芸品・チャリティーカレンダー販売を行いました。各イベントには、JHP会員の方もご来場下さり、楽しみながら実施することができました。

JHP 活動紹介

JHPの活動内容やカンボジアやネパールの教育事情を紹介し、国際支援を共に考える機会として、活動紹介オリエンテーションを実施しました。

今年度は主に、中学・高等学校の社会科学習や修学旅行の一環として訪問して下さった学生さんや出張授業、ボランティアに参加して下さった方々へ向けて行い、合計7回の開催で400名以上の方々と交流しました。

学生さんからは下記の感想の声が寄せられました。『貧しい環境にある人達に対して、「かわいそう」という言葉で片づけるのではなく、「できることから」という精神ではじめてみるということがとても心に残りました。』（東京女学館中学校3年生）

『世界には自分たちが当たり前だと思っていたことができないという人々がいるということを知りました。だから、同じ世界の仲間として支援したいと思いました。また、私はこの仕事に興味がもともとあって、こういう仕事につきたいと考えていたので、とても参考になりました。そして、この仕事につきたいと強く思えました。』（東雲小学校6年生）



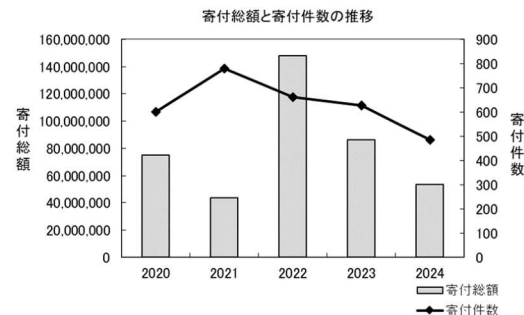
組織運営

会員数 381人 (2025年3月現在)

寄付金 486 件 53,292,802 円

	正会員	賛助会員
一般	231	102
特別	7	9
学生	12	20

前年比14名増 新規会員40名



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●寄付サイト

2つのサイトより58,317円のご寄付を受けました。

●募金型自販機

84,297円

●クレジットカード

利用数: 154件 (1,070,704円)

●スカイウィッシュ チャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムより、JHPへマイレージをご寄付いただけます。

個人の方はもちろん、修学旅行で獲得したマイルを寄贈いただく等、学校単位でのご寄付の輪も広がっています。寄贈頂いた貴重なマイルは、JHP活動地へのスタッフ渡航や現地の教育関係者を招聘する際に活用させていただいています。

今年度実績	
受領マイル	1,221,267マイル
利用マイル	2,239,500マイル
年度未残数	29,135,676マイル



寄贈頂いたマイルが、現地の教育関係者に活用されている様子

■「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」海外継続助成事業

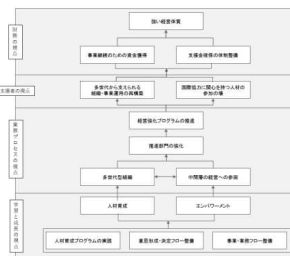
2024年1月から12月末までの1年間、JHPはパナソニックホールディングス株式会社が実施する、『Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs*1』海外継続助成として採択された事業に取り組んできました。当会は「組織基盤強化に向けた仕組み作りと実践 BSC*2を用いた多世代型組織への変革基盤強化」を目的に、組織が一丸となって取り組める基盤強化策の策定と実効性を高める強いリーダーシップ機能の実現を進めてきました。今後の展望として、基盤強化策の実施項目における数値目標の設定等により、精度を上げて実行度を高めていき、役員及び全職員の心の拠り所となる想いの言語化を目指していきます。

本助成を通じて、海外の学びたい子どもたちへの持続的教育支援活動を実現していくべく、引き続き組織基盤強化に励んでいきたいと思ひます。

*1 このファンドは、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて活動に取り組む NPO/NGO が、持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織課題を明らかにする組織診断や具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成しています。

*2 BSC: バランススコアカード (事業計画フレームワークの一つ)

*3 戦略マップ: どこに進んでいくべきか、何をすれば目標達成に繋がるのかを視覚的に表現したツール



戦略マップ*3

各種会議の報告

会議内容	2024年度の主な内容・実績
会員総会	2024年6月29日 (土) 開催。 出席者50名 (6/29時点の委任状含む)。 2023年度事業及び決算報告、 2024年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第154〜164回まで11回実施。
組織基盤強化 ミーティング	組織基盤強化に向けた各種取り組みについて 会議を11回実施。

■令和6年 能登半島地震 緊急支援募金活動のご報告

JHPは、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に対し、2024年1月から6月にかけて被災地支援のための募金活動を行いました。お寄せいただいた募金総額4万円は、現地ニーズを鑑み、最も大きな被害のあった石川県にて受付中の「石川県令和6年能登半島地震災害義援金」口座に振り込ませていただきました。ご寄付をお寄せいただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。

■〜JHPの運営を支える〜 未使用切手・はがきを寄贈いただきました

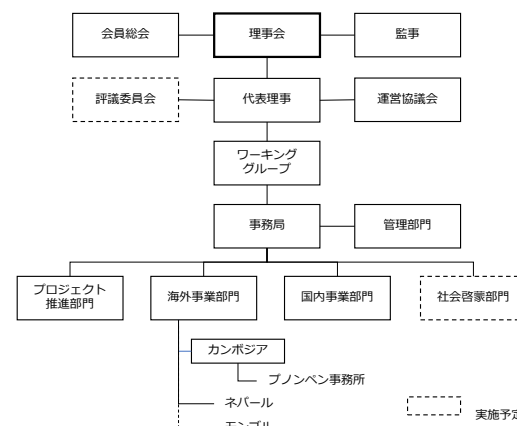
今年度、全コマツ労働組合連合会様より、下記の未使用切手・はがき寄贈をいただきました。寄贈品は各事業運営に役立てさせていただいています。温かいご支援に感謝申し上げます。

【2024年度 寄贈品総数】

未使用はがき: 2,531枚 / 未使用切手: 14,461枚

運営体制 (2025.4現在)

◎JHP 組織図



◎役員

代表理事	青木一能
理事	山岡修一、佐伯蘭子、佐谷隆一 脇田知子、伊藤多栄子、中込祥高 矢加部咲、野村政道、辰川はる奈 壽福隆人、和田勝則
監事	高橋久、河合将生

◎東京事務所

区分	2023年4月	2024年4月	2025年4月
定勤役員	3名	3名	2名
職員	3名	3名	3名
パートタイマー	2名	2名	1名
ボランティア (定期)	1名	1名	2名

◎ブノンペン事務所

区分	2023年4月	2024年4月	2025年4月
職員 (日本人)	2名	2名	3名
職員 (ローカル)	5名	5名	5名
専門家 (ローカル)	1名	1名	1名